見つけて。さつま町のいろ。

さつまいろ

"satsuma-iro"

さつま町町勢要覧 2023

人が、
まちが、
自然が、
かがやく。
いろんないろで。

さつまいろ。
それは、紫尾にたなびく雲の色。
川面に映る空の色。
薄墨にひそむ幻想的なホタルの色。
笹の葉の上で輝く露の色。
このまちで、人が織りなす日々の彩り。
さまざまなモザイクが集まって、
繊細な模様を描き出すように、
パレットの絵具が混ざり合い、
新たな色を生み出すように、
このまちの自然と、人の営みが、
このまちの景色を紡ぎだす。
やさしい色、なつかしい色、君の色。

ここにしかない、
さつまいろ。

ごあいさつ

さつま町の3代目の町長として、夢と希望のあるさつま町の未来に向けたまちづくりにまい進しています。

本町は鹿児島県の北西部にあり、標高1,067mの紫尾山や、町を貫流する川内川、田園や竹林、ホタルや温泉など、多くの自然に恵まれた風光明媚な町です。

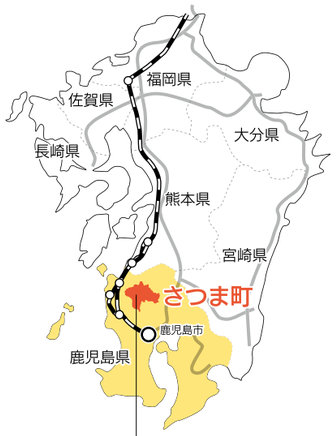
交通の面では、3つの国道が町の中心で交差し、人や物を運ぶ交通の要衝となっています。また、地域高規格道路である北薩横断道路の整備も進められており、早期完成が強く望まれています。

令和4年3月には、事業者、北さつま農協、町商工会、町観光特産品協会が垣根を越えて結束し、本町の地域ブランド「薩摩のさつま」が誕生しました。同年9月には、「持続可能な未来づくりカーボンニュートラルさつま町宣言」と「希望輝く　さつま町SDGs推進宣言」を行い、町を挙げて持続可能なまちづくりの実現に向けて歩みだしています。

この要覧を通して、本町の歴史や文化、自然、活力ある町民の方々など、さまざまな魅力を感じていただき、本町のさらなる発展にご支援ご協力いただければ幸いです。

さつま町長　上野（うえの） 俊市（しゅんいち）

まちの概要



さつま町は鹿児島県北西部に位置し、北部には紫尾山（標高1,067m）があり、総面積は303.90㎢です。
町のほぼ中心を南九州一の大河である川内川が貫流しており、5月から6月にかけて数多くのホタルを目にすることができます。
また、温泉や緑豊かな竹林など自然あふれる町です。東に鹿児島空港や九州縦貫自動車道横川IC、西に九州新幹線の川内駅、出水駅などがあり、交通アクセスに恵まれた位置にあります。
基幹産業は農林業で、特に「薩摩中央家畜市場」の子牛取引価格は全国トップクラスです。

車

鹿児島市	約1時間10分
薩摩川内市	約30分
出水市	約35分
伊佐市	約40分
鹿児島空港	約40分

飛行機

東京	約2時間
名古屋	約1時間30分
大阪	約1時間15分

※鹿児島空港まで

新幹線

東京駅	約6時間49分
新大阪駅	約4時間13分
博多駅	約1時間15分

※出水駅まで

CONTENTS

町長挨拶 3
まちの概要 / 目次 4

特集 #1
山と川。
さつま町のかお。
四季のいろ。 5

特集 #2
名湯の郷が、
二つある。 9

特集 #3
今に伝える
さつまの歴史。 13

特集 #4
広がる竹林
2,409ha。
“竹のまち”さつま。 17

特集 #5
成長する。
地域は人と。
人は地域と。 21

伝統工芸 23
特産品 24
ブランディング 25
祭り&イベント 27
さつま町里山アクティビティ 29
“さつま町に住みたい!”を応援 31
商業 33
ものづくり 34
農業 35
教育 37
子育て・福祉 39
公共サービス 41
議会 43
さつま町の宣言 44
さつま町MAP 45
資料編 47
町民憲章 ほか 49

特集 #1

山と川。
さつま町のかお。
四季のいろ。

さつま町の春は、福寿縁起のつるし雛「ささ福かざり」で始まります。春の陽気に花々がほころび、新緑が眩しくなるとホタルの乱舞が夏の訪れを告げてくれます。雨が続けば水の力を敬い、暑さの中ではせせらぎの音に癒されるのがさつま町の夏。青々とした田んぼが実りの秋には金色に変わり、収穫を終えて豊穣を感謝する頃にはそろそろ冬支度。紫尾の紅葉が雪景色へと変わるのを楽しみに、温泉でゆっくり温まりたくなる季節の到来です。いつまでも変わらずにいてほしい、さつま町の季節のいろ。なつかしいふるさとのいろです。

さつまいろ
さつま町の観光・自然に関するPR動画は**コチラ!**

川内川の水辺が見せる、昼のかお。夕のかお。

清き水のめぐみが、ここにも。そこにも。

川内川が悠々と流れるさつま町は、水の恵みも豊富。山々に降り注ぐ雨水がゆっくりと湧き出て麓の田園地帯を潤し、生き物たちを育みます。江戸時代には、大規模な開削工事が行われ、川内川の水路を使って宮之城の上納米を運搬していました。現在では、水力発電(鶴田ダム)によるクリーンエネルギーも生み出しています。

観音滝

3段の美しい滝で、観音様が現れたという伝説もあります。新緑や紅葉も美しく、季節によってさまざまな表情を見せます。周辺は「観音滝リゾート」として整備され、キャンプや川遊びも楽しめます。

北薩広域公園

川内川沿いにある広大な県立公園で、地域の自然・文化・歴史をテーマに整備されています。タケノコ掘りや炭焼きといった里山の暮らしを体験できるイベントも開催されています。また、天然温泉を備えるオートキャンプ場も人気です。

轟の瀬

岩場に激流がぶつかり合う光景は迫力満点です。川内川沿いにある「とどろ公園」で見ることができます。ここは17世紀に舟を通すために開削されました。付近には与謝野鉄幹・晶子夫妻の歌碑もあります。

神子滝

轟の瀬よりも上流にあり、落差は7mほど。轟の瀬、曽木の滝(伊佐市)とともに「川内川三轟」のひとつに数えられています。天保13年(1842年)には轟の瀬と同様、開削されました。

鶴田ダム

昭和41年に完成した九州で1番高い重力式ダムで、コンクリート壁は高さ117.5m・長さ450mもの規模があります。近くには鶴田ダム公園もあり、ダムと大鶴湖(ダム湖)を一望できます。

川内川大鶴ゆうゆう館

鶴田ダムに隣接しており、発電の仕組みを学べる「発電展示室」、ダムの機能や川内川流域での河川激甚災害対策特別緊急事業を紹介する「川内川流域展示室」のほか、レストランや観光案内所機能も備えた複合施設となっています。

ホタル舞う、初夏の夕べ。

毎年5月中旬から6月上旬にかけて、川内川の両岸を無数のホタルが飛び交います。シーズン中は神子地区のホタル大橋近く(奥薩摩のホタル舟)と、二渡水辺公園(二渡ホタル舟)の2か所からホタル舟が運航されます。舟から眺める幻想的な風景は、さつま町の初夏の風物詩。リピーターも多い人気のイベントです。

奥薩摩のホタル舟

二渡ホタル舟

奥薩摩のホタルを守る会
会長 栗野(くりの) 明男(あきお) さん

2002年からホタル舟の運航を始め、それ以来、地区のみんなで力を合わせて作り上げています。この活動を通して、地域への愛着が深まったように思います。環境保全にも目を向けるようにもなりました。また、地区外や町外からも協力をいただき、交流の広がりも生まれました。しかしながら、2020年～2022年はコロナ禍の影響で運航休止。ホタル舟を絶やすわけにいきません。まずは復活に向けて取り組んでいるところです。そして、未来へと残していく! 次の世代へとつなげます。

さつまいろ
さつま町の観光・自然に関するPR動画はコチラ!

特集 #2

名湯の郷が、二つある。

鹿児島にありながら冬の寒さも厳しく、古くから温泉が親しまれてきたさつま町。家族風呂や露天風呂など、個性的な施設が集まる温泉郷が町内に2か所も存在し、多様な温泉文化が根付いています。どちらも肌がすべすべになると評判の美人の湯。仕事帰りや休日に気軽に立ち寄れる、町民たちの憩いの場となっています。

宮之城温泉

泉質
硫黄泉

文政年間（1818〜1830年）に発見されて以来湯治場として栄え、昭和7年までは「湯田温泉」と呼ばれていました。川内川中流域に温泉旅館・温泉施設があり、温泉街が形成されています。温泉街に祀（まつ）られている湯之神社は、川の氾濫によって薬師如来像がこの地に流れ着いたことで創建されたと伝えられています。

湯田区営温泉

区民70円、区民以外でも150円で癒やしの湯を堪能できる。宮之城湯田温泉唯一の公衆浴場。

湯之神社

二度もこの地に流れ着いた薬師如来像が御神体。参拝前には温泉水の手水でお清めを。

みやんじょ温泉竹ホタル

川内川流域のホタル再生を願うイベント（12月に開催）。温泉街の約1㎞の道沿いに7,000本もの竹灯篭の明かりが灯ります。

さつま町にある その他の温泉施設

健康ふれあいセンター あび〜る館

薩摩薬師温泉

きらら温泉 白男川紫陽館

※町内には他にも多くの温泉施設があります。詳しくはP45〜46の「さつま町MAP」をご覧ください。

紫尾温泉

泉質
硫黄泉

紫尾山麓の丘陵に囲まれた静かな紫尾温泉郷。上之湯と下之湯に分かれており、紫尾神社の拝殿下から源泉が湧き出す上之湯は「神の湯」とも呼ばれ、最近はパワースポットとしても有名。薩摩藩が編さんした「三国名勝図会」にも記載され古くから愛されてきた湯は、現在でも新日本百名湯に選ばれ、県内外問わずリピーターが足を運んでいます。

足湯

紫尾神社拝殿下から湧き出る湯を気軽に楽しめる「神の湯」の隣りにある足湯。浴槽の底には玉石が敷かれ、足裏に心地よい刺激を与えてくれます。

紫尾神社

1500年ほど前、空覚上人が紫雲たなびく霊夢を見て創建し、鎌倉時代には源実朝が神鏡三面を奉納したと伝えられています。お告げによって山ヶ野金山、永野金山が発見されたとの伝説も。

紫尾温泉まつり

紫尾地区で11月に開催されるお祭りでは、地元農林産物の販売やお楽しみ抽選会のほか、紫尾郷土芸能保存会による郷土芸能や、柏原小学校児童による片平棒踊りなどで盛り上がります。

あおし柿

温泉の湯に一晩つけることで渋抜きする「あおし柿」も名物です。その光景は10月〜11月に見られます。湯の力で甘くなった柿は、町内の特産品直売所でも販売しています。

特集 #3

今に伝える　さつまの歴史。

さつまいろ
さつま町の歴史・文化に関するPR動画は**コチラ!**

宮之城島津家は、日新公のいろは歌で知られる島津忠良の三男尚久を初代とする島津家分家の一つです。1600年、2代忠長のときに宮之城領主になり、当初は虎居城を居城としました。宮之城島津家は島津家の分家の中で一所持ちという家格に属し、家老を多数排出しています。金山の発見や新田開発など藩の財政にも大きく貢献しました。

山崎郷御仮屋跡（山崎地区）

町南部の山崎地区は江戸時代の外城制度における「郷」の雰囲気が感じられます。山崎郷は藩の直轄地で、その御仮屋（役所のようなもの）の門が復元されています。山崎郷は、山崎、久富木、二渡、白男川、泊野の5村からなり、藩から任命された地頭によって治められました。実際の政治は山崎御仮屋で地元の郷士が行っていました。

宮之城島津家墓所（虎居地区）［国指定文化財］

国指定史跡「鹿児島島津家墓所」を構成する墓所の一つ。17世紀の初め頃に領主の島津忠長が菩提寺として宗功寺を建立。明治時代初めの廃仏毀釈により廃寺となりましたが、ここには宮之城島津家2代忠長をはじめ、33基の墓石が立ち並んでいます。幕府の儒官であった林春斎の銘文が刻まれた祖先世功碑もあります。

梅君ケ城跡（鶴田地区）

島津歳久の側室が住んでいたとされる城。豊臣秀吉が九州攻めの際に立ち寄ったともされています。

太閤陣跡（鶴田地区）

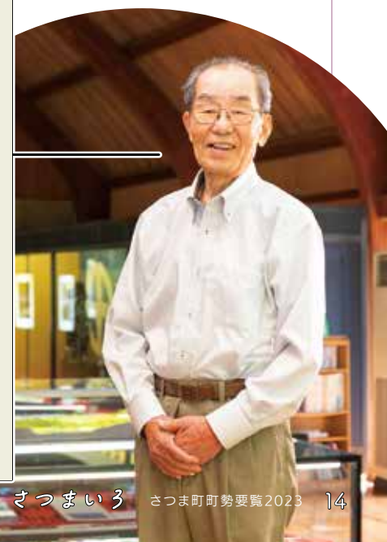
豊臣秀吉が陣を張ったとされる場所が鶴田にあります。島津義弘が秀吉に拝謁し、大隅国の所領を安堵された場所として伝わっています。

大石神社（中津川地区）

祁答院良重と島津歳久を祭神としています。秋の祭りは「金吾様踊り」として親しまれています。

郷土史研究会
会長　三浦（みうら） 哲郎（てつろう） さん

さつま町には、宗功寺や虎居城跡などの史跡、紫尾山にまつわる伝説などがありますが、このような歴史遺産の保存・活用のためには、地元に住んでいる方々にも、もっと興味を持ってもらえるような取組が必要だと思います。さつま町郷土史研究会では、歴史を伝えるための文献・映像作りやパンフレット作成を進めています。例えば、これまであまり知られていなかったけれども、夢を抱いて地元に貢献してくださった先人たちを紹介する「さつま町人物伝」を編さんしたり、宗功寺にある「祖先世功碑」に刻まれた漢文を、子どもたちでも読めるように書き下して出版する予定で、私も完成を楽しみにしています。



島津歳久とさつま町

島津歳久着用と伝えられる色々威胴丸兜大袖付
〔個人蔵〕黎明館寄託

島津歳久は島津貴久の三男で、兄の義久・義弘、弟の家久とともに戦国島津家の勢力拡大の中で活躍しました。天正８年（1580年）に祁答院（現在のさつま町を含む）領主となり、12年間にわたって治めました。豊臣秀吉との戦いでは最後まで抗戦を主張し、領内を通過する秀吉のかごに矢を射かけさせたという伝説も残っています。現在でも住民からは「金吾様（きんごさぁ）と呼ばれ親しまれていますが、これは歳久が名乗った官名「金吾左衛門督」からきています。

大石神社大祭時の奉納踊り

澁谷一族とさつま町

さつま町一帯はかつて「祁答院」と呼ばれ、古くは大前氏がこの地を治めていました。鎌倉時代には千葉氏が川薩地域一帯の郡司に任命されますが失脚し、その後は渋谷光重が領地を拝領します。光重は5人の息子に領地を分け与え、これが渋谷五族と呼ばれるようになりました。やがて祁答院を支配した一族は祁答院氏を名乗り、鶴田を支配した一族は鶴田氏を名乗ります。のちに鶴田氏は、他の渋谷一族と対立し、応永８年（1401年）の鶴田合戦に敗れて没落。鶴田も祁答院氏が支配します。その祁答院氏も、戦国時代に島津家に敗れて領地を奪われました。

虎居城跡
（宮之城屋地地区）

平安時代末頃に大前氏が築城。その後は、祁答院氏のほか、島津歳久や北郷時久も本拠地としました。「下之城」という別名もあり、これはのちに「宮之城」に改められました。

首塚（鶴田地区）

鶴田合戦の戦没者のために建立されたといわれている。県内最大規模の供養塔で、高さは3m以上。

さつま町の歴史を巡るなら

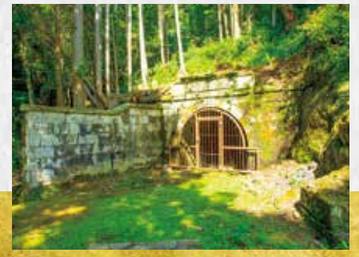
宮之城歴史資料センター

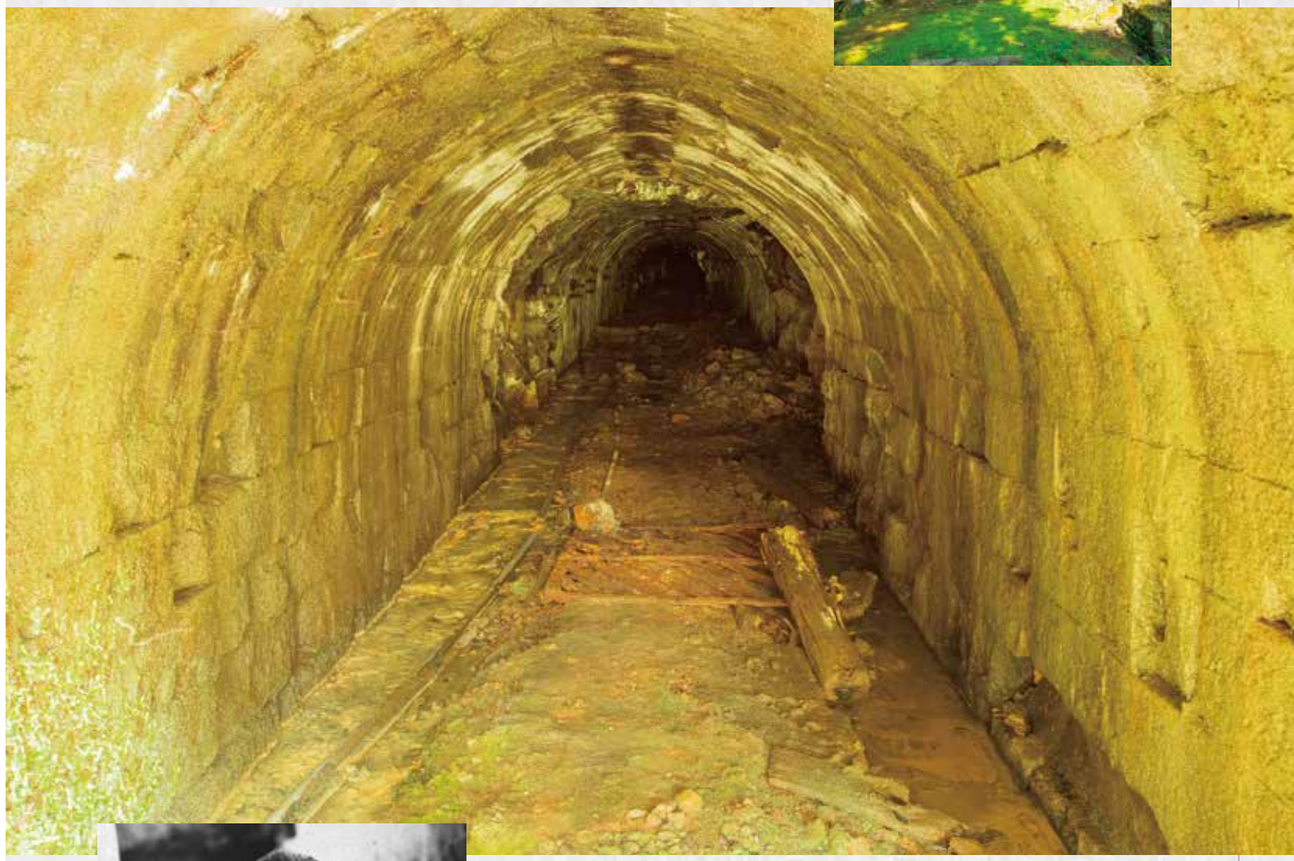
旧石器時代から近現代に至るまで町の歴史を網羅。時代を順に追ってわかりやすく紹介されています。『宮之城記』をはじめとする文書資料、宮之城島津家ゆかりの品といった貴重な資料を多数展示。

薩摩藩の財政を支えた黄金の里

1640年、宮之城島津家4代久通が領内で砂金を見つけたことから金山の探索を命じ、永野金山が発見されました。一時、産金量は佐渡金山をしのぎ、財政難だった薩摩藩の貴重な財源になったといいます。幕末には島津斉彬によって金山採掘の近代化が図られ、その事業は五代龍作や西郷菊次郎に受け継がれていきます。

永野金山跡（胡麻目坑口跡）





永野金山と西郷菊次郎

西郷菊次郎は、西郷隆盛と愛加那の子です。奄美大島から西郷本家に引き取られ、西南戦争にも従軍。負傷により投降したあとは政府に出仕し、台湾総督府勤務、宜蘭県知事や京都市長などを歴任。その後、明治45年から大正8年まで金山鉱業館長を務め、鉱山設備の近代化などに尽力しました。そして、自費を投じて夜学校や武道場を開設し、青少年教育にも力を注ぎました。

鉄橋跡

さつまいろ
さつま町の竹資源に関する
PR動画は**コチラ!**

特集 #4

広がる竹林 2,409ha。“竹のまち”さつま。

全国一の竹林面積を誇る鹿児島県の中でも、特に多くの竹林が広がるさつま町は日本一の竹の産地。町では、早掘りタケノコや加工用タケノコなど農産物としてのタケノコのほか、竹を使った工芸品や竹製品の製造販売が盛んです。竹取物語を彷彿とさせる竹を活かした景観づくりをすすめるなど、長年にわたって「竹のまち」をテーマにした町おこしにも取り組み、タケノコ掘りを体験できるグリーン・ツーリズムや竹製品の作り方を学べる竹細工教室を開催するなど、暮らしとともにある竹の魅力を発信し続けています。

竹を使った工芸品

町の雰囲気づくりにも竹を活用（湯田八幡神社）

原田（はらだ） 満雄（みつお） さん

タケノコの旬といえば「春」ですが、さつま町では「秋」から収穫ができます。中でも、10月下旬から出荷される超早掘りタケノコは「さつまたけのこ」というブランドで関東を中心に高級料亭やホテルなどで提供される高級品です。
タケノコの一大生産地としての生産を守るため、後継者の育成と竹林資源の有効活用が重要な課題です。そのために、荒れた竹林をタケノコ生産林へ改良したり、竹林内の作業路を新しく作ったり、竹林管理路の維持や補修などの活動に取り組んでいます。それらの活動を続けていき、次の世代へと受け継いでいきたいです。

タケノコ

さつま町のタケノコは、香り豊かで歯ごたえが良く、全国的にも高い人気を誇ります。特に、10月末から出荷される超早掘りタケノコは、東京の市場などでは高値で取引される極上品。鮮度が命ともいわれるタケノコですが、採れたてのうちに加工することで一年中タケノコのおいしさを味わうことができます。

タケノコ加工工場

町内の工場では採れたてのタケノコだけを加工します。水煮にしたものを缶詰にして保存し、出荷の直前に開缶して袋詰め。年間通して、いつでも新鮮な状態でタケノコを味わえます。

タケノコ掘り体験

毎年春に開催される「泊野観光たけのこ園」やグリーン・ツーリズムの一環としてタケノコ掘りも体験できます。

竹製品

笊(ざる)や籠(かご)など、昔から暮らしの中で親しまれてきた竹細工。最近では、網目の美しさを活かした花籠やランプシェードなど、和の趣を感じられるインテリアとしても注目されています。竹には、石油を原料とするプラスチック製品とは違う味わい深さがあり、地球環境にやさしい素材であることも魅力です。

宮之城 伝統工芸センター

館内には竹製品などを展示し、「竹の博物館」的な施設です。特産品販売所「フレッシュ宮之城」もあり、竹製品などを求めて多くの人が訪れます。竹細工の体験もできます。

ちくりん公園

世界中の竹が集められた公園。北薩広域公園の一角にあり、竹をイメージしたモニュメントが目印です。園内には茶室もあり、ゆったりとくつろぎながら竹林を眺めることもできます。

有限会社西田竹材工業所 代表取締役
西田 大造(にしだ たいぞう) さん

竹は、扱い方によっていろいろな製品になる面白い素材です。山から切り出してきた竹は、できるだけ早く下処理を行わないと虫やカビがついてしまいます。難しい素材ではありますが、「この竹製品でなければ」と言ってくれるお客さまがいらっしゃるので、「竹の代わり」を探すのではなく、やはり、これまで通り竹で作っていきたいと思っています。そのためにも、県内外の同業者の方々と情報交換したり、素材となる竹を分け合ったりと、横のつながりも大切にしていかなければなりません。今後も竹製品の文化を絶やさないために、毎日の料理や食事で使われる身近な製品を作り続けていきたいですね。

特集 #5

成長する。地域は人と。人は地域と。

さつま町では、町民と各種団体、事業者、行政が連携しながら暮らしやすいまちづくりに取り組み、「ひと・まち・自然　みんなで紡ぐ　さつま町」の実現を目指しています。また、町民がスポーツを楽しみ、芸術・文化に親しめる機会の充実に努め、幅広い世代が伝統や歴史に触れられる環境づくりを推進します。

スポーツコンベンションのまち

子どもからお年寄りまで、積極的にスポーツに参加しています。グラウンド・テニスコート・体育館・プールなど体育施設も充実。日頃の練習はもちろんのこと、競技会も多数開催されています。宮之城高等学校（現在の薩摩中央高等学校）ラグビー部が全国大会に4度出場するなど、ラグビーとの縁も深く、30年以上前からラグビー合宿の地にもなっています。毎年、夏になると強豪チームが全国から集まります。

にぎわう スポーツ合宿

ラグビー・バレーボール・サッカーなどの強豪チームが来訪。プロサッカークラブのキャンプ地にもなっています。

吹奏楽のまち

吹奏楽が盛んなまちで、学校や一般の吹奏楽団が精力的に活動を行っています。音楽祭や演奏会などの開催も多く、町民は音楽に親しんでいます。宮之城中学校はかつて吹奏楽コンクールで全国2位という実績を持ち、近年では町内を拠点に活動する社会人吹奏楽団が全国大会でも活躍しています。

宮之城屋地地区 げんき文化祭り

「げんき健康祭り」と交互に隔年開催。五ッ太鼓やお遊戯などの舞台発表、書道や創作帯結びといった作品の展示があります。

神子地区 夏祭り

毎年8月12日に開催。吹奏楽部による演奏をはじめ、ダンスや和太鼓などで盛り上がります。地元の園児たちによるお神輿パレードや、川沿いで打ち上がる花火も恒例です。

時吉地区 厄払い親子相撲大会

厄年の男性が相撲を取って厄払い。小中学生も参加して、学年ごとに対戦します。還暦を迎える皆さんによる餅まきもあります。

求名地区 クリスマスマーケット

建築家・堀部安嗣氏が手掛けた「ある町医者の記念館」と「南の家」で開催されます。堀部氏のデビュー作である両施設を開放し、イルミネーションに彩られた建物の内外で飲食物や雑貨を販売します。

紫尾地区 もぐら打ち

小正月に行われる「もぐら打ち」は、地域の子どもたちが稲わらを結びつけた木の棒で庭先を叩き、五穀豊穣を願う行事。「モグラウチャモタンカ、モウテバウッコロスド」という掛け声でもぐらを追い払います。

柊野ひがん花まつり

田園地帯に咲く約20万本のひがん花。毎年9月にイベントが開催され、参加者は絶景の中を散策します。

虎居地区 シバザクラの植栽

春に川内川河川敷の石積みの間に約5,000株のシバザクラを植栽。地域の住民が力を合わせて、美しい景観を作り上げています。

伝統工芸
CRAFTS

鹿児島県伝統的工芸品に指定されている薩摩切子や鶴田和紙、初市で販売される宮之城人形など、この土地に残る伝統技術と文化を未来へと継承していく。そのための体験会を企画しています。

ガラス工芸 薩摩切子

観音滝の近くで薩摩切子や創作びーどろの製造販売を行っており、工場見学やガラス制作体験ができます。鹿児島県伝統的工芸品に指定され、海外でも展示会を開催しています。金赤・黄・緑・瑠璃・藍・黒と6色の薩摩切子が、江戸以来のカットガラスの輝きを今に伝えています。

鶴田和紙

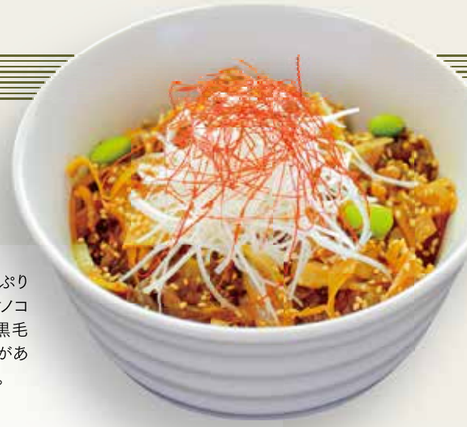
鶴田和紙は、手もみ茶を作る際の茶取り紙として漉かれたことが起源とされ、鹿児島県伝統的工芸品の指定を受けています。原料はクワ科の「梶(カジ)」を使用。味のある手触りの丈夫な和紙で、神事・書道・水墨画用や、茶とり紙などに使われており、焼酎のラベル用としても人気です。地域の小学校の卒業証書を児童自ら漉く体験や、グリーン・ツーリズムでの紙漉き体験も実施され、大変喜ばれています。

宮之城人形

宮之城人形は、明治時代に作られていた素焼きの土人形です。長年途絶えていた人形作りですが、平成17年に宮之城人形復興会によって66年ぶりに復活し、継承されています。代表的な作品に「天神」「鯛持ち」など味わい深い人形があります。

特産品
SPECIALTY

採れたてのフルーツや旬の野菜、清流の恵みなど、里山の魅力を味わえるバラエティ豊かな特産品。地元の食材を活かした加工品も数多く作られ、新たな商品開発にも取り組んでいます。



黒毛和牛 たけのこ丼

さつま町名物の旨みたっぷりの黒毛和牛と香り高いタケノコが絡み合う一品。町内の「黒毛和牛たけのこ丼」ののぼりがある飲食店で提供しています。

水田を中心に栽培される新ゴボウは、柔らかくておいしく、春を告げる食材として人気です。

さつま町の最重点作物であるサトイモは、セレベス(赤芋)・大和芋・石川早生など、多様な品種が栽培され、鍋やおでんの食材に最適です。

生産量が少なく“幻のみかん”とも呼ばれる「十万温州」。高い糖度とほどよい酸味があり、収穫後約50日間の貯蔵でより甘みが増します。

太陽をいっぱいに浴びて丸々と育ったブドウは、甘みをたっぷり蓄えています。栽培品種はブラックオリンピア・シャインマスカットなど。

川内川に棲息し、6月に漁が解禁される鮎。とれたての鮎は町内の飲食店でも提供されています。

さつま町のナシは実が大きいことやみずみずしさ、すっきりとした甘みが自慢です。栽培品種は幸水・豊水・新高など。

さつま町のキンカンは糖度が高く、生で皮ごと食べられます。甘露煮などの加工品もあり、「開運きんかん」の商品名でも出荷されます。

モクズガニとも呼ばれる山太郎ガニ。上海蟹(チュウゴクモクズガニ)とは近縁種になります。茹でたり汁物に入れるなど、楽しみ方はさまざま。

武家町として栄えた宮之城を中心に菓子店は多く、和菓子・洋菓子問わず地元産物を活かした名物が次々誕生しています。

薩摩のさつま

SATSUMA no SATSUMA

「薩摩のさつま」は、さつま町の地域統一ブランドです。

鹿児島県薩摩郡さつま町は、まさに「薩摩の中のさつま」。
さつま町でうまれ、独自の認証基準を満たし、
自信を持っておすすめできるものが、薩摩のさつまブランド。
じょじょん熱い想いを込めて九州・薩摩からお届けします。

インタビュー

INTERVIEW

薩摩のさつまブランド推進協議会
幹事長　堀之内（ほりのうち） 力三（りきぞう） さん

PROFILE
堀之内酒店の代表。事業者の有志で集まり、地域統一ブランドの立ち上げに関わる。

みんなで「わが町」を盛り上げる！
褒め合って、支え合って、魅力を発信

『薩摩のさつま』はすごく良い言葉だと思います。すぐに鹿児島をイメージできますからね。この言葉を、さつま町の地域統一ブランドとして掲げることができました。そして、組織の枠を越えて、町が一体となって地域を盛り上げていけるものにもなりました。事業者・北さつま農業協同組合・さつま町商工会・さつま町観光特産品協会・さつま町役場が一緒に取り組んでいます。町のみんなでブランドを作り上げていこう！ 広げていこう！というわけです。
商品をお届けするだけでなく、その背景にある人・風土・歴史といった土地が持つ豊かさも伝えていきたい、と私たちは考えています。そのためには、町のみんながつながることが大事です。地域統一ブランドを立ち上げたことで、町の結束力はより強くなったと感じています。ブランドプロミスとして「褒め合い、支え合い、地域愛」と掲げています。良いものを認め合い、人におすすめし、地域の魅力を伝える。町への愛着にもつながっていくはずです。みんながそうすることで町の未来が輝かしいものになる、と期待しています。

未来の子どもたちへの想い

『薩摩のさつま』は次世代への支援として、認証マークの付いた商品をお買い上げいただくと、売上の一部をさつま町の子どもたちの教育やスポーツのために活用いたします。
未来を夢見る地域の子どもたちへ、世代を越えたつながりと、地域への愛着を育み、どこへいようとも、ここはあなたの故郷なのだよ、と両手を広げる存在でありたい。
そして子どもたちの更に子どもたちへと、支え合い、認め褒め合う文化を、私たちの誇りとして伝えたい。
商品を購入いただくことで、あなたの想いも次世代へとつなげたいと考えます。

作り手インタビューのフルバージョンはこちら

さまざまな情報を発信中！
Instagram　Facebook

ふるさと納税の返礼品や商品の購入はこちら
楽天ふるさと納税　ふるさとチョイス　さつま町逸品ショップ

さつま町の祭り&イベント

Festival & Event in SATSUMA TOWN

人々をつなぐ、祭り・イベント。

川内川を中心に、季節の祭りや地域資源を活用したさまざまなイベントが行われています。企画運営に携わる人々はその日のために準備を重ねることで親睦を深め、当日は多くの町民が祭りやイベントの賑わいを楽しんでいます。また、町外の人々を招いて交流を図るなど町の活性化にも力をいれています。

さつまいろ
さつま町の祭り・イベントに関するPR動画は**コチラ!**

さつま町夏まつり

町民総出で盛り上がる!1,000人以上が参加する手踊り、神輿や〝ねぶた〟が町をねり歩きます。五ッ太鼓、吹奏楽やダンスなども華を添え、夜空に花火も上がります。

北薩広域公園春まつり

ゴールデンウィーク中に開催され、公園では家族連れが楽しめるイベントが目白押し。花苗やバルーンアートのプレゼントも好評です。

川内川鮎まつり

鮎漁の解禁にあわせて開催されます。用意された3,000匹の鮎はすぐに完売する盛況ぶりです。炭火で香ばしく焼き上げて味わいます。

宮之城初市

2月7日(旧暦1月)には初市が開かれます。古くから子どもの成長を願って土人形を贈る風習があり、それが初市で売られます。宮之城人形は昭和14年頃に途絶えましたが、有志により平成17年に復興。縁起物として再び親しまれています。

ほたるの里ジョギング大会 in 鶴田ダム

鶴田ダムや大鶴湖の大きさを身近に感じながら駆け抜けます。健脚を競うもよし、親子で参加するもよし。自然に囲まれたコースを思い思いに楽しめます。

奥薩摩「鶴田ダム」ウォーキング大会

伊佐市の曽木の滝から鶴田ダムまでの約12kmを歩きます。参加者は自分のペースで自然を楽しみながらゴールを目指します。

さつま町産業祭&JA農業祭

「さつま町産業祭&JA農業祭」は、さつま町が開催していた「さつまフェスタ」と、北さつま農業協同組合が開催していた「農業祭」を合同で開催する秋の新イベントです。農林産物等の展示販売や、五ッ太鼓演奏などが開催されます。

さつま町 祭り・イベント年間スケジュール

- 1月 新春泳ぎ初め
  みやんじょ吹奏楽フェスタ
- 2月 宮之城初市、山崎初市
  さつま町民大会
- 3月 ほたるの里ジョギング大会 in鶴田ダム
  泊野観光たけのこ園
- 5月 北薩広域公園春まつり
  宮之城伝統工芸センター祭り
  奥薩摩・二渡ホタル舟運航
- 6月 川内川鮎まつり
- 8月 さつま町夏まつり
- 9月 柊野ひがん花まつり
- 10月 北薩広域公園秋祭り
  大石神社秋季大祭(金吾様踊り)
- 11月 さつま町文化祭
  紫尾温泉まつり
  さつま町産業祭&JA農業祭
  奥薩摩「鶴田ダム」ウォーキング大会
- 12月 みやんじょ温泉竹ホタル
  宮之城暮市